

あの日、
日本の劇作家たちが集まった。
あれから二十一年。
そして、これからの二十一年。

(1) 平成6年4月1日

日本劇作家協会会報

日本劇作家協会会報

第1号

日本劇作家協会 東京都目黒区駒場1-11-13 こまばアゴラ劇場内

☎・FAX 03-3467-

黄金の大規則

会長

井上ひさし

もともと自分を含めての話であります。わたしは劇作家というものをまったく誤解していたように思います。これまでは、劇作家というものは、自分の考え方を尊重しとして、なにかというところを酒場にとくろを巻いて自分の気に入らない人間や芝居の悪口を言いたい。もしも自分の芝居にケチをつける人間があれば不倶戴天の敵として生涯憎みつけけるばかりか七生までも崇めて喚き立てるような者たちであると考えていたのですが、事實はそうでなかった。劇作家の諸兄弟と協会設立のための集いを何度となく重ねているうちに、そんな劇作家像なぞまるでもありもしない錯覚にすぎなかつたことが身に沁みてわかってきました。もちろんこれには、

げるところに感動しました。そして自分の知っている中でも、最も良質の者たちが、ここに集まっていると直感しました。そして集会に参加している間は、自分も諸兄弟にならって良質になることができたような気がしたのでした。千変万化に変貌しながら様ざまな顔を見せる厳しい現実の株、その退ツ引きならない株と全力を上げて取組みながら、束の間ではあれ、観客とともに演劇的空間の立ち現れる瞬間を創りあげようと懸命な努力を積み上げている者たち。言葉でも音楽でも絵でも映像でも捉え切れない「生の真実」を見事に舞台上に掴まえてみようとありったけの脳味噌を絞る、あらゆる技術を繰り出す手練の者たち。もちろん誰に頼まれたわけではなく、自分の判断と責任においてこの困難な事業を行っているのです。からもたら覚悟の上ではありませんが、それにしても、報われることと少く、いろいろな意味でひどい状況の下で仕事をせざるを得ない者たち。……そういつた互いの辛い思いが、言わず語らずのうちに通じ合って、互いに尊敬しつつ同情し合い、前に述べたような黄金の規則ができあがったのではないのでしょうか。

ひるがえって我が身を省みるに、初日延期や上演中止を繰り返して関係者の皆さんに大変な迷惑をおかけしており、それこそ七度生まれ変わってただ働きしても償い切れないほどの文債を背負っています。いかに会員諸兄弟から選出されたといえ、このような人間が会長の席にあっては、右に述べたような会員諸兄弟が備えておいた「質の良さ」をまったく裏切ることになると懸念いたしますが、それでもこの席にある以上は、なんとか頑張っ行ってかねばなりません。

日本劇作家協会を任意団体からしっかりとした、法人団体に。戯曲を満載した雑誌を創刊する。海外研修制度の恩恵を劇作家にも分かち与えてもらう。日本で上演されるすべての戯曲を保存する演劇図書館をつくる。……実現すべき目標や、できたらいいねというような目当では山ほどありますから、考えようによっては、これからの十年間ぐらいが、一番おもしろくて、やりがいのある時期なのかもしれません。例の黄金の規則を大事にしながら、会員諸兄弟と腕を組み合って頑張れるところまで頑張れたらと願っております。風呂敷をできるだけ大きくひろげるのも役目のうちだろうと考えますので、思い切って一つだけ言わせていただくと、早急に実現したいものに、「住み込み作家制度」というものがあります。これは欧米諸国にある制度で、大学や地方自治体が一定期間、劇作家を抱えるやり方です。たとえば早稲田大学が劇作家のだから客員教授に採用する。給料は年額五百万円。

その間、その劇作家はじっくりと想を練って戯曲の一本も書く。もちろん仕事をせざる遊んでいてもよろしいのです。劇作家が気が向いたら夏なぞに演劇についての公開講座を開いてもよい。じつを言いますと、わたしもオーストラリア国立大学の、この「住み込み作家制度」のおかげで、一年間、彼の国の首都であり大学の所在地でもあるキャンベラ市でほんやりすごしてきました。課せられた義務は二時間の公開講義が一本だけ。その成果は、怠け者のことですから、そう上がったとはいえませんが、それでも、「雨」という戯曲を書き、「吉里吉里人」という小説の構想を得て帰ってきました。勤勉な人ででしたらもっと成果があったらうと思いたす。こういう制度を日本の大学や地方自治体が採用してくれるよう働きかけもするつもりです（もちろんその前に理事会で十分話し合わなければなりません）。こういっただけが実現する可能性はすいぶん低いと思えます。けれどもなにもしないよりはまし、百動いて一つ実現すればよしとする。これが自分に課した小さな規則です。この確率百分の一の、なにか当て事のような思いつきや動きが、会員諸兄弟のあの黄金の大規則に支えられることで、確率百分の一ぐらいに成長すればと願っております。

1993年12月27日、それまでの仮運営委員会の活動を経て、日本劇作家協会が正式に設立しました。翌1994年4月1日発行の「日本劇作家協会会報第1号」巻頭の故井上ひさし初代会長のメッセージを、ト書き～日本劇作家協会20周年スペシャル版～の表紙として再掲載させていただきます。